

めぐみイエス・キリスト教会

2022年11月13日(日)第二主日礼拝
週報「通算第632号」



2022年標題聖句

第 I テモテへの手紙御6章17節～19節

《高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませて下さる神に望みを置き、善を行ない、立派な行ないに富み、惜しみなく施し、喜んで分け与え、来たるべき世において立派な土台となるものを自分自身のために蓄え、まことのいのちを得るように命じなさい。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌343「罪に満てる世界」	p. 546
【交読文】	No.25 詩篇第73篇	p. 899
【賛美Ⅱ】	新聖歌196「祈れ物事」	p. 290
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【先週説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル曲No.1「ひとつのいのち」	
【聖書朗読】	使徒の働き20章17節～38節	p. 277上段
【礼拝説教】	《与えるほうが幸い》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌165「栄光イエスにあれ」	p. 235
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

●ポイント1. 「アジアに足を踏む入れた最初の日」とは？

※使徒の働き18章19節～21節「使徒パウロの勧め」(新約p.272下段)

18:19 彼らがエペソに着くと、パウロは二人を残し、自分だけ会堂に入って、ユダヤ人たちと論じ合った。

18:20 人々は、もっと長くとどまるように頼んだが、パウロは聞き入れず、

18:21 「神のみ心なら、またあなたがたのところに戻って来ます」と言って別れを告げ、エペソから船出した。

●ポイント2.「誰の血に対しても責任がありません」とは？

※エゼキエル書3章17節～19節「警告を与えよ」 (旧約p.1417下段)

3:17 「人の子よ。私はあなたをイスラエルの家の見張りとした。あなたは、私の口から言葉を聞き、私に代わって彼らに警告を与えよ。

3:18 私が、悪い者に『あなたは必ず死ぬ』と言うとき、もしあなたが彼に警告を与えず、悪い者に悪の道から離れて生きるように警告しないなら、その悪い者は自分の不義のゆえに死ぬ。そして、私は彼の血の責任をあなたに問う。

3:19 もしあなたが悪い者に警告を与えても、彼がその悪と悪の道から立ち返ることがないなら、彼は自分の不義のゆえに死ななければならない。しかし、あなたは自分のいのちを救うことになる。」

●ポイント3.「受けるよりも与えるほうが幸い」とは？

※第Ⅱコリント9章6節～11節「コリント教会への勧め」 (新約p.366)

9:6 私が伝えたいことは、こうです。わずかだけ蒔く者はわずかだけ刈り入れ、豊かに蒔く者は豊かに刈り入れます。

9:7 一人ひとり、いやいやながらでなく、強いられてでもなく、心で決めたとおりにしなさい。神は、喜んで与える人を愛して下さるのです。

9:8 神はあなたがたに、あらゆる恵みをあふれるばかりに与えることがおできになります。あなたがたが、いつもすべてのことに満ち足りて、すべての良いわざにあふれるようになるためです。

9:9 「彼は貧しい人々に惜しみなく分け与えた。彼の義は永遠にとどまる」と書かれているようにです。

9:10 種蒔く人に種と食べる為のパンを与えて下さる方は、あなたがたの種を備え、増やし、あなたがたの義の実を増し加えて下さいます。

9:11 あなたがたは、あらゆる点で豊かになって、すべてを惜しみなく与えるようになり、それが私たちを通して神への感謝を生み出すのです。

◎先週の礼拝メッセージ【主の山には備えあり】

《「アドナイイルエ」とは「主の山には備えあり」と言う意味です。今日の聖書箇所は、アブラハムの最大の試練の場面であります。

「アブラハムよ。あなたの子、あなたが愛しているひとり子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。そして、私があなたに告げる一つの山の上で、彼を全焼のささげ物として献げなさい。」

神様の呼びかけに、アブラハムはすぐに従います。モリヤの地とは、後にエルサレム神殿が建てられた丘の名前であり、ベエル・シェバから、約80キロの道程で、歩いて3日ほどの距離でした。

「お父さん。火と薪(たきぎ)はありますが、全焼のささげ物にする羊は、どこにいるのですか。」

「わが子よ、神ご自身が、全焼のささげ物の羊を備えて下さるのだ。」

この時イサクは、伝説によりますと37歳であったと言われています。アブラハムの信仰も素晴らしいのですが、息子イサクの信仰にも目をみはるべきです。イサクは、父親を本当に信頼していたのです。

アブラハムは、祭壇を築いて薪を並べます。そしてイサクを縛り、祭壇の上へのせ、イサクを屠ろうとしました。すると、その時です。

「アブラハム。その子に手を下してはならない。その子に何もしてはならない。今、私は、あなたが神を恐れていることがよく分かった。」

アブラハムが目を上げて見ると、一匹の雄羊が角を藪に引っかけていました。アブラハムはその雄羊をイサクの代わりに全焼の捧げ物としたのです。この雄羊こそが、神の小羊、主イエスのひな形です。パウロは証しします。『あなたがたが経験した試練はみな、人の知らないものではありません。神は、あなたがたを耐えられない試練にあわせることはなさいませぬ。むしろ、試練と共に脱出の道も備えていて下さいます。』と。私たちには、必ず主の道が備えられています。》

お知らせ

※次回の第三主日礼拝は、11月20日(日)です。通常通り、教会において行ないます。